



伏見宿 (御嵩宿より1里8町)

立宿したのは御嵩宿より90年以上後の元禄7年(1694)といわれている。町並みは5町16間余り。
中山道は土田から犬山經由と土田から木曽川を渡って大田宿經由が混用されていたが木曽川の渡河地点が上流に移るに従い土田宿の機能が薄れ助郷が伏見宿に移った(元禄7年頃)、寛延3年(1750)、嘉永元年(1848)火災に遭う。

御嵩宿 (細久手宿より3里)

中山道美濃路出最初に朱印状が下付された町並みは4町56間、東より上町、上本町、本町と続く宿場町としてでなく古代より東濃の中心地としてまた蟹薬師として知られる願興寺の門前町として栄えたところである。
下街道の発達や明治以降中央線の開通により宿場町としては衰退したが、旧制中学、裁判所が設けられるなど東濃文化の中心は続いてきた。

